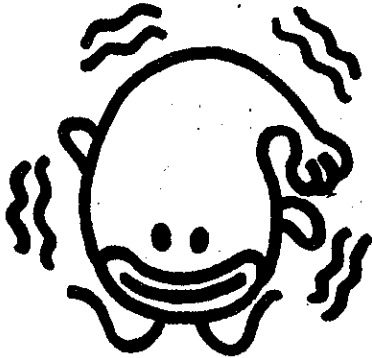


衣川台なまず通信

創刊号



発行 衣川台自主防災部

発行日 2005年6月15日

創刊号発行に寄せて

部長 松田八郎（自治会長）

私達の住む衣川台のすぐ近くを堅田断層（琵琶湖西岸断層）が通っています。今年滋賀県が発表した地震被害予測では、今後30年以内に琵琶湖西岸断層で地震の発生する確率は0.09～9%で、全国で6番目に高い確率だそうです。

そして堅田近辺で地震が起これば大津市96,000戸の内23,000戸が全壊、20,000戸が半壊、市内で500人の死者、3,000人の負傷者が出ると予想されています。

そのように各地で被害が発生する事態になった場合、消防や自衛隊はすぐには駆けつけてくれません。県も、自分たちの地域は自分たちで守る必要があると言っています。

衣川台でも、昨年の自主防災専門委員会の提言を受け、自主的な災害活動員を募集し、本格的に自主防災部が活動を開始しました。

自主防災部では、資材の準備や各種訓練を行うとともに、日常の啓蒙活動のために、この自主防災部機関紙「衣川台なまず通信」の発行を行うことにしました。

ぜひ目を通して頂き、皆さんの災害時に備えた準備に役立つよう願っています。

新生防災部の立上げ

筆頭副部長 原田隆司（災害活動員リーダー）

任期1年の自治会役員と、日頃から訓練を積み重ね専門性を有し継続して任に当たる災害活動員が融合し、実質的に活動できる体制を目指して自主防災部が発足して2ヶ月余り経ちました。

“出来る事から速やかに行動に移す”をモットーに、年度計画の作成、資機材の整備、防災訓練の計画、防災部機関紙の発行、防災マニュアルの作成等の活動を進めています。

力不足の点が多々あることは承知の上で、まずは実行し、その結果を反省し、住民の皆様のご意見をお聞きするというサイクルを継続して回すことにより、地域にマッチした防災活動に育っていくものと考えています。

今後皆様には自主防災活動への参加や協力をお願いすることになりますが、これらに対して率直なご意見をお寄せ下さい。

災害活動員を公募した所、33名の方が応募して下さいました。その後数人の方が新たに参加頂いていますが、更に多くの方が災害活動員になって頂くことを願っています。

副部長 井村龍彦（自治会役員）

今年度 自治会の総務部長という大変な役になり、併せて、自主防災部の副部長をも務めることになりました。

旧村では、昔から 消防団という自主防災組織があり、都度 活動していましたが、新興住宅街には そういう組織は無く、今回の 衣川台自主防災部の本格的な立上げは、大変 心強く 思います。

微力ながら この1年 頑張りますので、宜しく お願いします。

情報班長 池本秀作（自治会役員）

情報班長を担務させて頂くことになりました 8組 池本です。

衣川台自主防災部の「自分達の町を自分達で守る」取組みは、始まったばかりです。

防災は、衣川台に住んでいる私たち一人一人が、考え、力を合わせて行かなければならない課題だと思っています。

今何をすればよいのか手探りの状態ですが、少しずつでも、しっかりと作り上げていくものだと思います。

情報班長として、皆さんが何を求めているのか、よく考え、衣川台に住んでいる一人としてお役に立てればと願っております。

情報統括班長 軸丸真行（災害活動員）

情報統括班は、衣川台独自の組織として、防災部の事務局機能や対外的な窓口機能を担当する職制として設けられました。（災害時には、衣川台内外の情報を把握・統括し、対策本部の対応策決定を助勢する役割りを担います）

今後、防災部としての活動の企画や旗振り、あるいは、種々の折衝に当って、調整役として立ち回るようになります。

歴史のある自治会活動と異なって、全てが零からの出発と覚悟して掛からなければならないでしょう。

防災部の活動が空回りとならないよう、皆様方の御理解、御協力の程、宜しくお願い致します。

消火班長 増田泰男（災害活動員）

消火班には現在5名が登録されています。広い衣川台をカバーするに足る人数ではありませんが、やれることから地道にやりたいと考えています。5月8日に衣川台の防火施設(防火

水槽2、消火栓16、消火器40)を全員で現場確認しました。消火栓口の地表からの位置がバラバラであること、消火器の噴射時間が18秒～43秒、重量が9.6kg～12.2kgといろいろであることが分かりました。今年度は全体訓練以外に、各組単位の消火器取り扱い訓練を計画しています。

救出班長 青谷達雄(災害活動員)

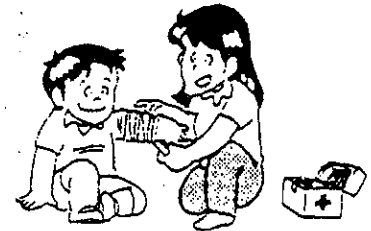
救出班からのお願い!

被災時、自らの命は自ら守る、が第一です。

家族の安全、日頃から家庭内の点検、そして出来る事から即実施!
まず家具の転倒防止!...お困りの方は相談ください。

もし閉じ込められた時は、大声で隣近所に助けを求めましょう。

住民みんなで助け合い、安全安心の衣川台! にしよう。



救護班長 宮本茂充(災害活動員)

救護班 11組の宮本でございます。昨年度の自主防災専門委員から引続き、自主防災部の活動員として名を連ねることとなりました。

現役世代で、親として、子として、忙しい身としては、かなり厳しいものがあります。

機材不足、人手不足など、理想と現実の乖離(かいり)に悩みつつ、臆(かい)より始めよ のたとえどうり、出来るところから始めましょう。

災害時の地域力を高めるため、地域の医療関係者をはじめ、皆様の御協力を、切にお願い申し上げます。

避難誘導班長 荒川靖久(災害活動員)

災害時、一時避難には 地域で決められた(対策本部のある)避難場所「南自治会館」「南公園」に。必要とあれば、さらに、仰木の里東小学校まで集団避難することになります。

この時に 避難路は? 要介護者は? 搬送の方法は? 持参品は? 等々 疑問点・問題点が多大です。

こうした要領を、避難誘導班4人で、そして皆様と共に 考えてまいります。

— 自分たちのまちは自分たちで守る —



平成17年度 自主防災部の働き

—経過の御報告—

事務局（情報統括副班長） 岡田融（災害活動員）

平成17年度総会において衣川台自主防災体制充実への取組みが「重点事項」として承認・可決されて、いよいよ活動がスタートしました。

活動計画に応じた組織が編成され、計画を具体的に展開するための会議が順次開催され、総合的で、かつ、実効的な活動を遂行するという目的に沿って、一步ずつ確かな足取りで進められています。

防災部の活動経過について、次のとおり報告します。

(注)これ以外に各班毎の会合をしています

3/27	衣川台総会	「新」防災部組織(新体制)確立
4/3	第1回 事務局会議	
4/24	第1回 災害活動員全体会議	災害活動員応募者への説明、諸報告
5/1	第2回 事務局会議	
5/14	第1回 本部会議	会議体の設置と年度事業計画の審議と決定
5/21	活動協力員打合せ	防災部機関紙の発行方針と編集局の設置
6/6	第3回 事務局会議	
6/11	第2回 本部会議	資機材整備、研修計画、防災訓練他の審議
6/26(予定)	第1回 防災訓練	(別項に内容記載)

なお、自主防災部の活動を計画的に遂行することを狙いとして、必要な事項を定める「防災計画(防災マニュアル)」の原案を、事務局にて鋭意作成準備中です。

ちょっと聞いて !!!

災害協力員 池田和子(10組)

一ヶ月前の電車の事故も怖かったけれど、最近、日増しに叫ばれる地震、これ 怖くありませんか。

皆さん、なにか対策していますか。我が家では、今 ちょっとだけこころがけていることがあります。

- * ベッドの下には必ず自分のスリッパを置いておくこと
- * 懐中電灯はベッドに固定しておくこと
- * 玄関には運動靴を家族分揃えておくこと
- * 階段の下には(家族が分かりやすいところ)救急用具の入ったキャリーバッグを置いておくこと

まだまだあるとは思いますが、今とりあえずです。私一人はこれくらいかしら。でも多くの人が集まればもっとありますよね。万全ではありませんが、意識は十分あります。

それぞれが、今何ができるのでしょうか。第一に自分の命、そして家族の命、向こう三軒両隣、衣川台のご家族、少しずつ身近なこととして考えていきませんか。